

「法定合併協議会」参加へ

このたびの「合併住民アンケート調査」につきましては、たいへん短い期間の中で行ったにもかかわらず、92%という高い回収率となりました。また住民懇談会には815人という大勢の皆さんにご参加をいただきました。区長さんはじめ町民の皆さんのご協力に感謝申し上げます。

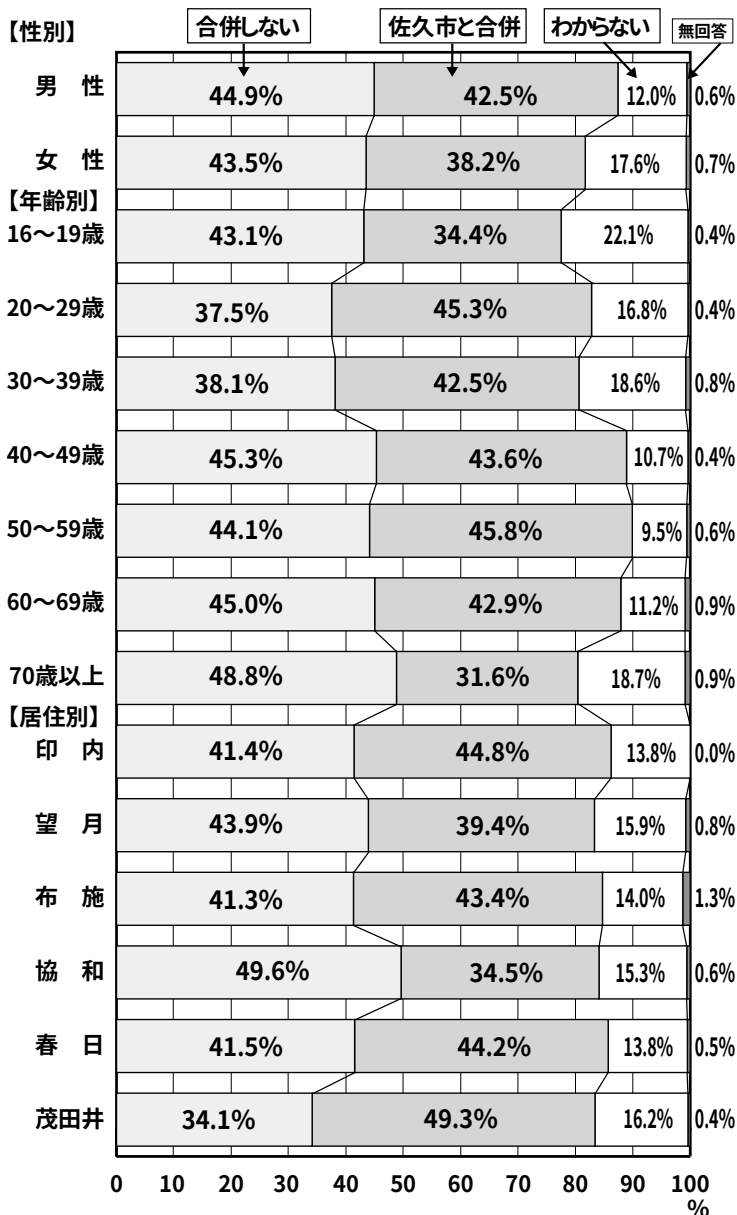
住民アンケートは「自立する」44・0%に対し、「佐久市と合併する」40・1%と非常にきつ抗した結果となりました。

11月21日、竹花健太郎町長は、町議会全員協議会において、「アンケート結果は、合併も自立も過半数にならずきつ抗している町の方を判断するに大変難しい結果となったが、若い世代で合併希望が多いことや、将来の財政状況などを多角的に分析し、合併の道を選択したい。今後、佐久市・臼田町・浅科村で設置される法定合併協議会へ参加して、子どもや、孫たちの将来を考えて、また、『望月』の特性を絶やすことのないよう、必要なことはきちんと主張し、合併に向けて手続きを進めていきたい。」と表明しました。

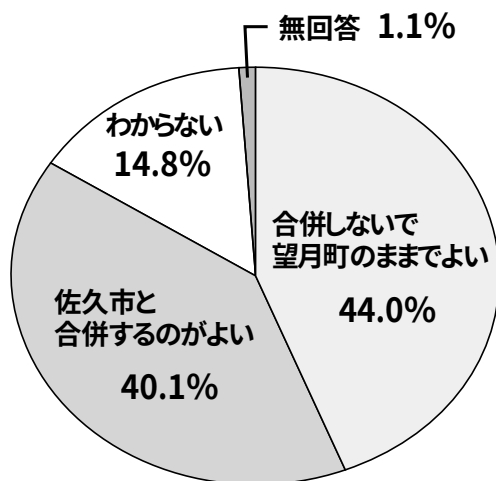
その後、町議会合併問題特別委員会が開催され、町長の方針を支持することを決定しました。

市町村合併に関する住民アンケート調査結果

◇属性別分析

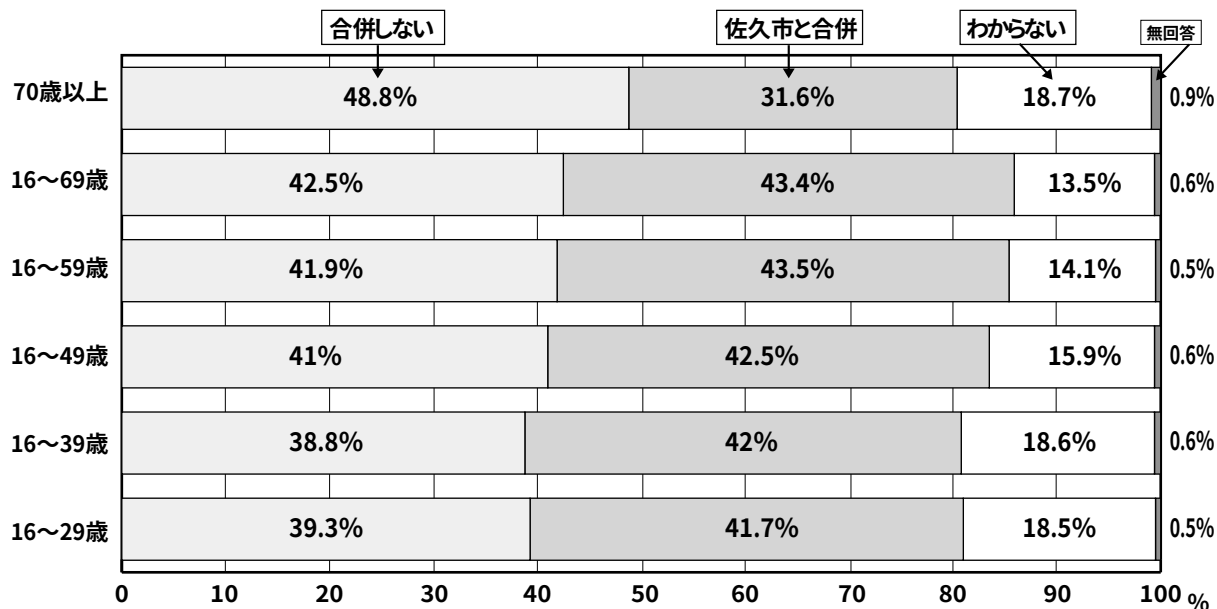


対象者数	9,092人
回収数	8,364人
有効数	8,359人
無効数	5人
回収率	92.0%
有効回収率	91.9%



▲住民懇談会（望月地域コミュニティセンター）

◇年代別に分析してみると



【新たな望月の発展のために】

アンケートは、町の方向性を判断するに当たって大変難しい結果となりましたが、私は、あえて合併の方向を選択し、協議会へ参加することを決意しました。

その理由は、私たちの「今」ではなく、子どもや孫たちの「将来」を見つめ、今後のまちのあり方を考えるべきであり、合併はそのための手段の一つであると考えに至ったからです。

11月に、今後の地方自治制度のあり方について、国の地方制度調査会から最終答申が出されました。これには、県が自主的な合併を進める対象となる小規模な市町村の人口の目安を1万人未満とすると明記されており、そのための新たな法律を制定するとされています。

少子高齢化は、当町にとっても深刻な問題となっています。町の人口は近年中に1万人を割ることは確実であると見込まれます。また、これまで望月町は、過疎であることにより国から手厚い財政支援を受けてきました。しかし、国の財政状況が厳しく、市町村の規模等に対応して行われてきた各種の財政措置の見直しが確実視されており、町の歳入のうち約45%を地方交付税に頼っている脆弱な財政基盤である当町にとっては、大変な危機が訪れようとしています。

このままではこれまでのような行財政基盤を維持できなくなり、住民福祉の向上を図るという基本的役割を担うことが困難となることが予想されます。

住民懇談会の資料には、自立の場合の赤字解消策を記載しましたが、これらに組み組めば、当面の財政赤字は解消されるかも知れません。しかしながら、その先に明るい将来があるのでしょうか。

私は、このたびの調査結果を見て、これほど多くの皆さんがこの望月町を想い愛してくださっていることを再認識するとともに、深く感動を覚えました。また、愛しているからこそ「合併」して更なる発展を目指すという皆さんも多くいることを知り、勇気づけられました。私も思いは同じです。これまで先輩方が築いてこられた歴史・文化・伝統、そしてすばらしい自然環境。これらの「望月」の特性を絶やすことがあってはならないと考えます。

今後は、佐久市、臼田町、浅科村の協議会に参加するための手続きを進めていきますが、必要なことはきちんと主張していく覚悟で取り組んでまいります。当面、自立でしのぎ、立ち行かなくなったら合併するというのでは、そういった主張はしにくくなるでしょう。

これからも、新たな望月の発展のために、町民の皆様と共通した認識のもとに取り組んでいけるよう、こうした結論に至った経緯を明らかにするための説明会の開催や今後の町づくりに向けて懇談会も開催していきたいと考えております。町民の皆様のご理解と、さらなるご協力をお願いいたします。

望月町長 竹花 健太郎